

平成 23 年 2 月 24 日
内閣府（防災担当）

避難勧告・避難指示に関するアンケート調査結果

【調査概要】

◇調査の対象

梅雨前線による大雨（平成 22 年 6 月 11 日～7 月 19 日の間に水害が発生）の水害で被災した 5 地域

対象地域と被災状況

都道府県	市町村	世帯数 (住基) [21. 03. 31]	避難指示		避難勧告	
			対象世帯数	対象人数	対象世帯数	対象人数
岐阜県	可児市	*38,516	654	1,694	38,516	101,671
広島県	広島市	510,938	0	0	48,952	117,277
	三原市	42,792	4,671	11,958	3,956	10,031
山口県	防府市	52,101	11	19	10,724	25,386
福岡県	那珂川町	18,643	0	0	6,280	10,041
合計		662,990	5,336	13,671	108,428	264,406

（注）可児市の世帯数（住基）は、平成 22 年 7 月 1 日時点による。

◇回収数

地域別回収状況

都道府県	市町村	回収件数
岐阜県	可児市	370
広島県	広島市	667
	三原市	35
山口県	防府市	341
福岡県	那珂川町	154
合計		1,567

◇調査期間

平成 22 年 11 月 11 日（木）～11 月 22 日（月）

◇調査方法

インターネットによる配布・回収（電子モニターを対象とした Web 調査）

◇調査項目

1. 避難勧告等への理解
2. 避難勧告・避難指示の見聞き状況
3. 避難勧告・避難指示を見聞きした方法
4. 避難勧告・避難指示を見聞きしてとった行動
5. 自宅にとどまった理由

【調査結果の概要】

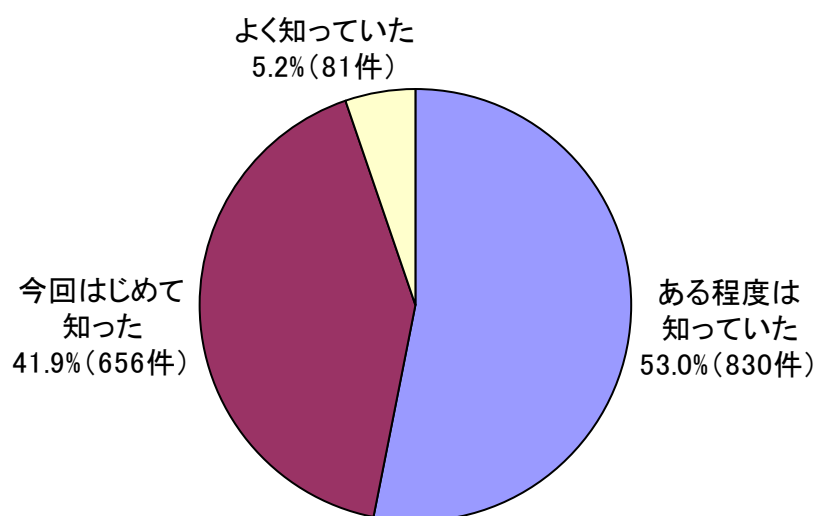
1. 避難勧告等への理解 (N=1567・単数回答)

(災害時に市町村から発令される下記の避難準備情報・避難勧告・避難指示の定義を解説し、これらの違いについての認識程度を把握)

<避難勧告等の解説>

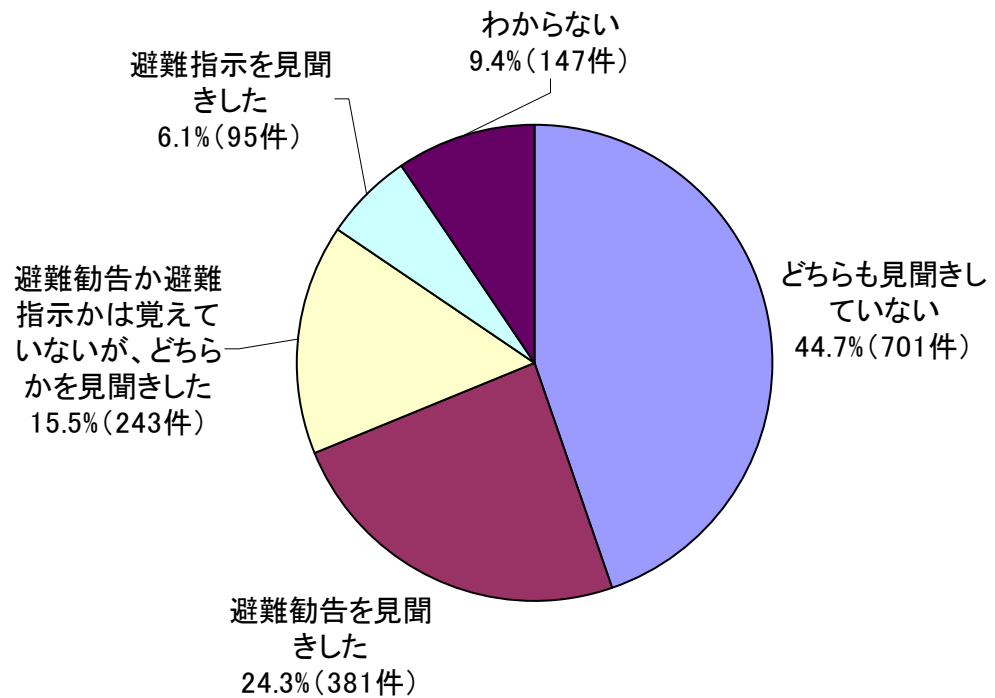
種 類	解 説
避難準備情報	災害の発生する可能性が高まった状況において、高齢者等の避難に時間を要する方などに避難を促す情報であるとともに、それ以外の方が避難の準備を開始する情報。
避難勧告	災害が発生する可能性が明らかに高まった状況において、一般の方に避難の開始を求めるもの。
避難指示	災害が発生する危険性が非常に高くなった状況等において、未だ避難していない住民は直ちに避難し、避難するいとまがない場合は生命を守る最低限の行動を取るよう指示するもの。

区分	回答数	%
ある程度は知っていた	830	53.0
今回はじめて知った	656	41.9
よく知っていた	81	5.2



2. 避難勧告・避難指示の見聞き状況（N=1567・単数回答）

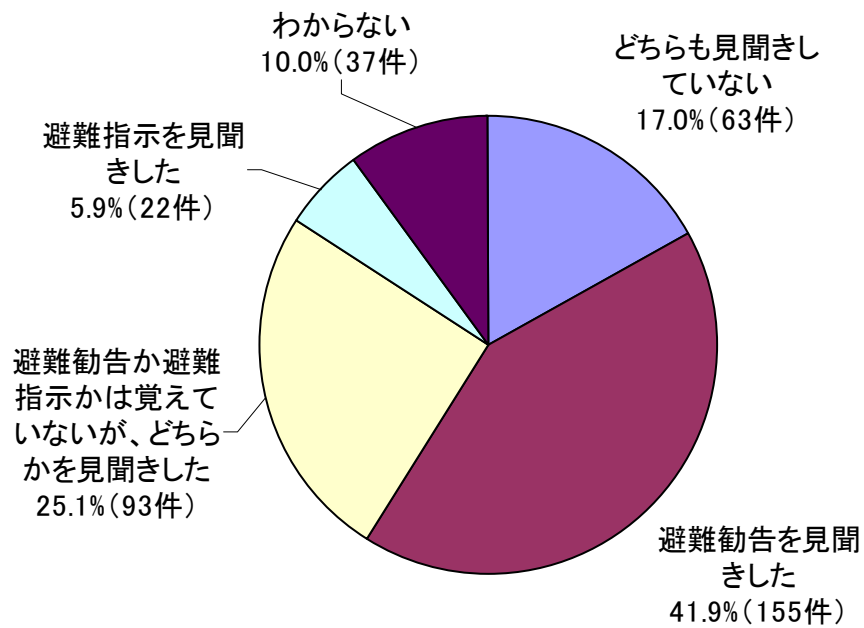
区分	回答数	%
どちらも見聞きしていない	701	44.7
避難勧告を見聞きした	381	24.3
避難勧告か避難指示かは覚えていないが、どちらかを見聞きした	243	15.5
避難指示を見聞きした	95	6.1
わからない	147	9.4



[参考1：可児市（N=370・単数回答）]

区分	回答数	%
どちらも見聞きしていない	63	17.0
避難勧告を見聞きした	155	41.9
避難勧告か避難指示かは覚えていないが、どちらかを見聞きした	93	25.1
避難指示を見聞きした	22	5.9
わからない	37	10.0

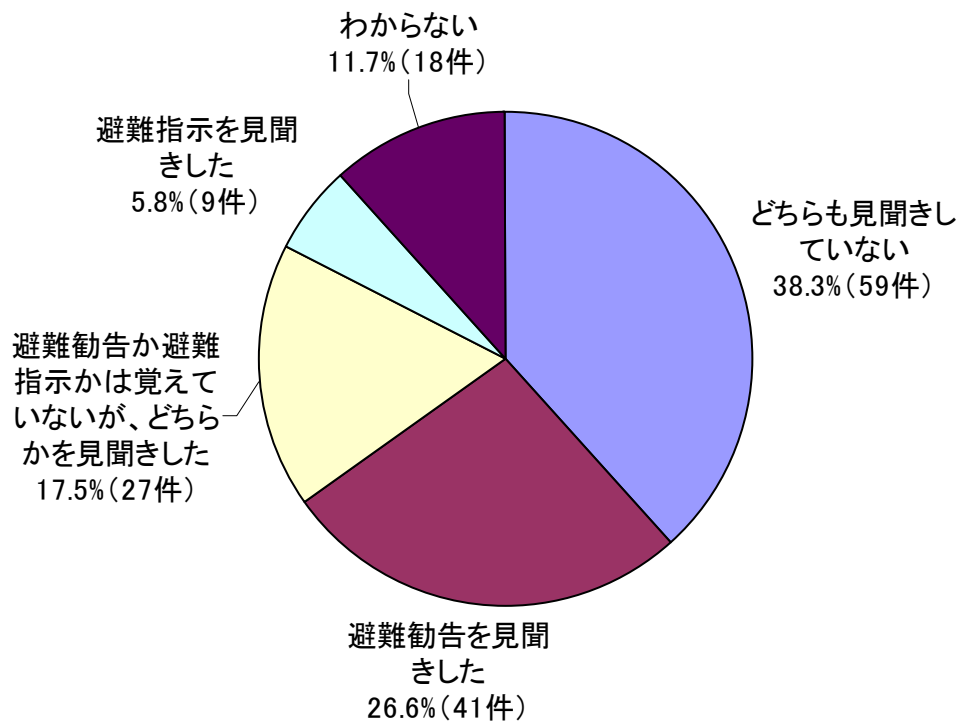
(注) 可児市は、市域全域で避難勧告が発令されている。



[参考2：那珂川町 (N=154・単数回答)]

区分	回答数	(%)
どちらも見聞きしていない	59	38.3
避難勧告を見聞きした	41	26.6
避難勧告か避難指示かは覚えていないが、どちらかを見聞きした	27	17.5
避難指示を見聞きした	9	5.8
わからない	18	11.7

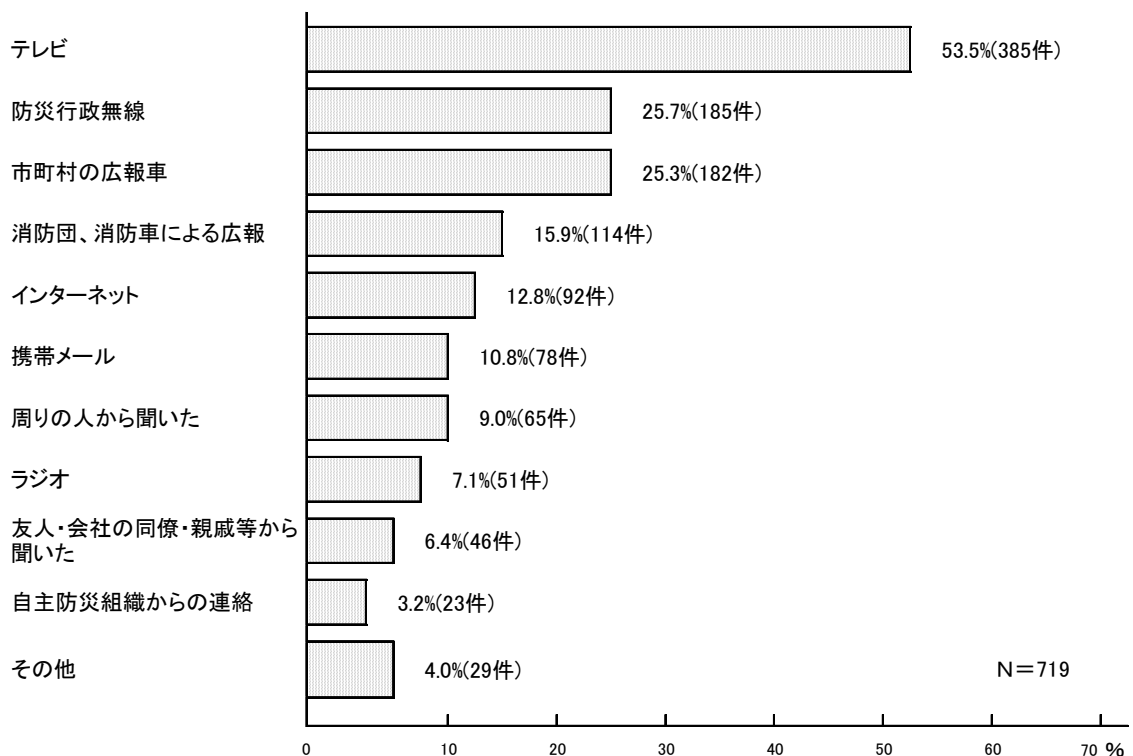
(注) 那珂川町は、全世帯の1/3程度の地域で、避難勧告が発令されている。



3. 避難勧告・避難指示を見聞きした方法（N=719・複数回答）

「2. 避難勧告・避難指示の見聞き状況」で、避難指示を見聞きした、避難勧告を見聞きした、避難勧告か避難指示かは覚えていないがどちらかを見聞きしたと答えた719人の回答者

区分	回答数	%
テレビ	385	53.5
防災行政無線	185	25.7
市町村の広報車	182	25.3
消防団、消防車による広報	114	15.9
インターネット	92	12.8
携帯メール	78	10.8
周りの人から聞いた	65	9.0
ラジオ	51	7.1
友人・会社の同僚・親戚等から聞いた	46	6.4
自主防災組織からの連絡	23	3.2
その他	29	4.0

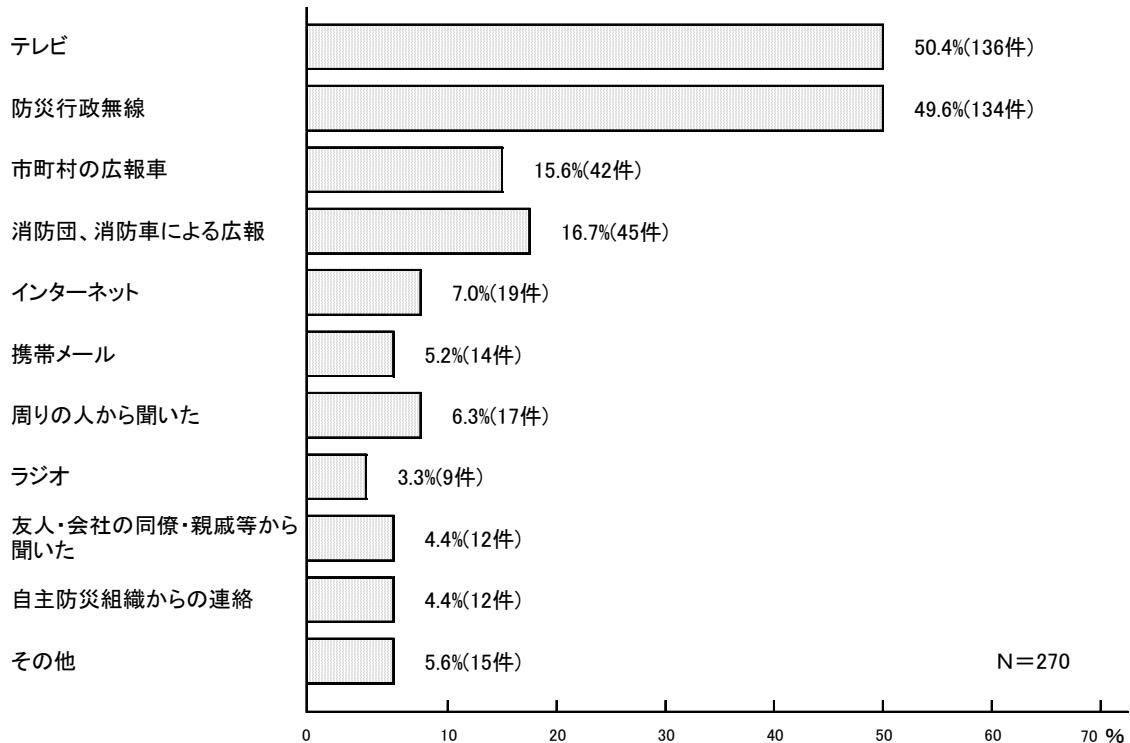


(可児市 [参考 1] にて、避難指示を見聞きした、避難勧告を見聞きした、避難勧告か避難指示かは覚えていないがどちらかを見聞きしたと答えた 270 人の回答者)

[参考 3 : 可児市 (N=270・複数回答)]

区分	回答数	%
テレビ	136	50.4
防災行政無線	134	49.6
市町村の広報車	42	15.6
消防団、消防車による広報	45	16.7
インターネット	19	7.0
携帯メール	14	5.2
周りの人から聞いた	17	6.3
ラジオ	9	3.3
友人・会社の同僚・親戚等から聞いた	12	4.4
自主防災組織からの連絡	12	4.4
その他	15	5.6

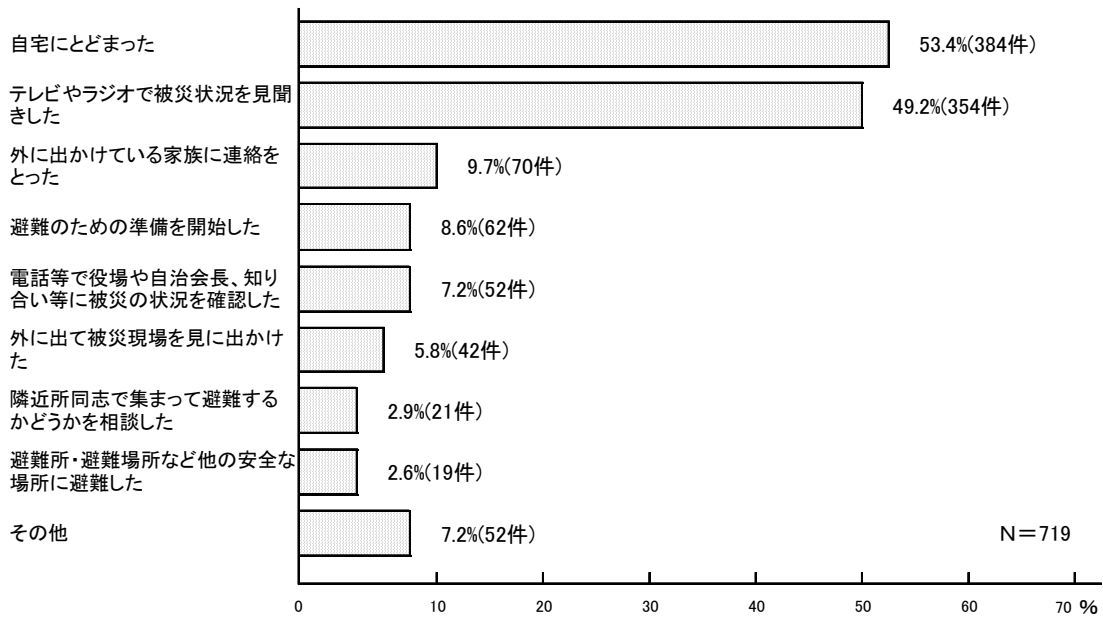
(注) 可児市は、市域全域で避難勧告が発令されている。



4. 避難勧告・避難指示を見聞きしてとった行動 (N=719・複数回答)

「2. 避難勧告・避難指示の見聞き状況」で避難指示を見聞きした、避難勧告を見聞きした、避難勧告か避難指示かは覚えていないがどちらかを見聞きしたと答えた719人の回答者

区分	回答数	%
自宅にとどまった	384	53.4
テレビやラジオで被災状況を見聞きした	354	49.2
外に出かけている家族に連絡をとった	70	9.7
避難のための準備を開始した	62	8.6
電話等で役場や自治会長、知り合い等に被災の状況を確認した	52	7.2
外に出て被災現場を見に出かけた	42	5.8
隣近所同志で集まって避難するかどうかを相談した	21	2.9
避難所・避難場所など他の安全な場所に避難した	19	2.6
その他	52	7.2

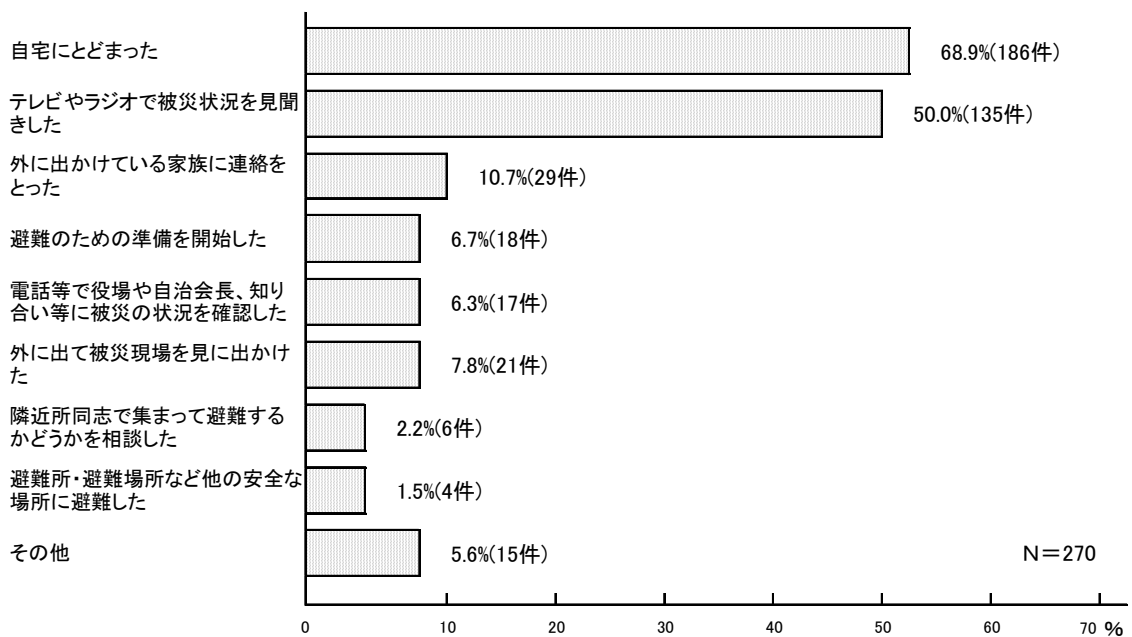


(可見市 [参考 1] にて、避難指示を見聞きした、避難勧告を見聞きした、避難勧告か避難指示かは覚えていないがどちらかを見聞きしたと答えた 270 人の回答者)

[参考 4 : 可見市 (N=270・複数回答)]

区分	回答数	%
自宅にとどまった	186	68.9
テレビやラジオで被災状況を見聞きした	135	50.0
外に出かけている家族に連絡をとった	29	10.7
避難のための準備を開始した	18	6.7
電話等で役場や自治会長、知り合い等に被災の状況を確認した	17	6.3
外に出て被災現場を見に出かけた	21	7.8
隣近所同志で集まって避難するかどうかを相談した	6	2.2
避難所・避難場所など他の安全な場所に避難した	4	1.5
その他	15	5.6

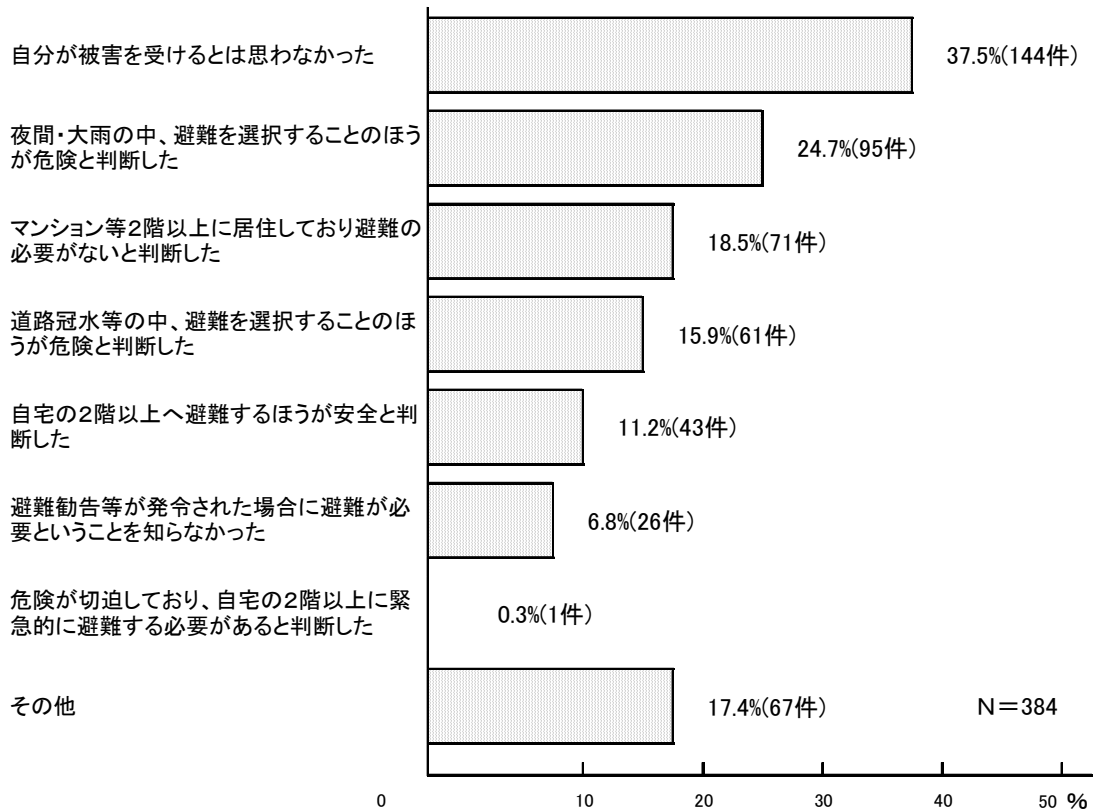
(注) 可見市は、市域全域で避難勧告が発令されている。



5. 自宅にとどまった理由 (N=384・複数回答)

「4. 避難勧告・避難指示を見聞きしてとった行動」で、自宅にとどまったと答えた384人の回答者

区分	回答数	%
自分が被害を受けるとは思わなかった	144	37.5
夜間・大雨の中、避難を選択することのほうが危険と判断した	95	24.7
マンション等の2階以上に居住しており、避難の必要がないと判断した	71	18.5
道路冠水等の中、避難を選択することのほうが危険と判断した	61	15.9
自宅の2階以上へ避難するほうが安全と判断した	43	11.2
避難勧告等が発令された場合に避難が必要ということを知らなかった	26	6.8
危険が切迫しており、自宅の2階以上に緊急的に避難する必要があると判断した	1	0.3
その他	67	17.4

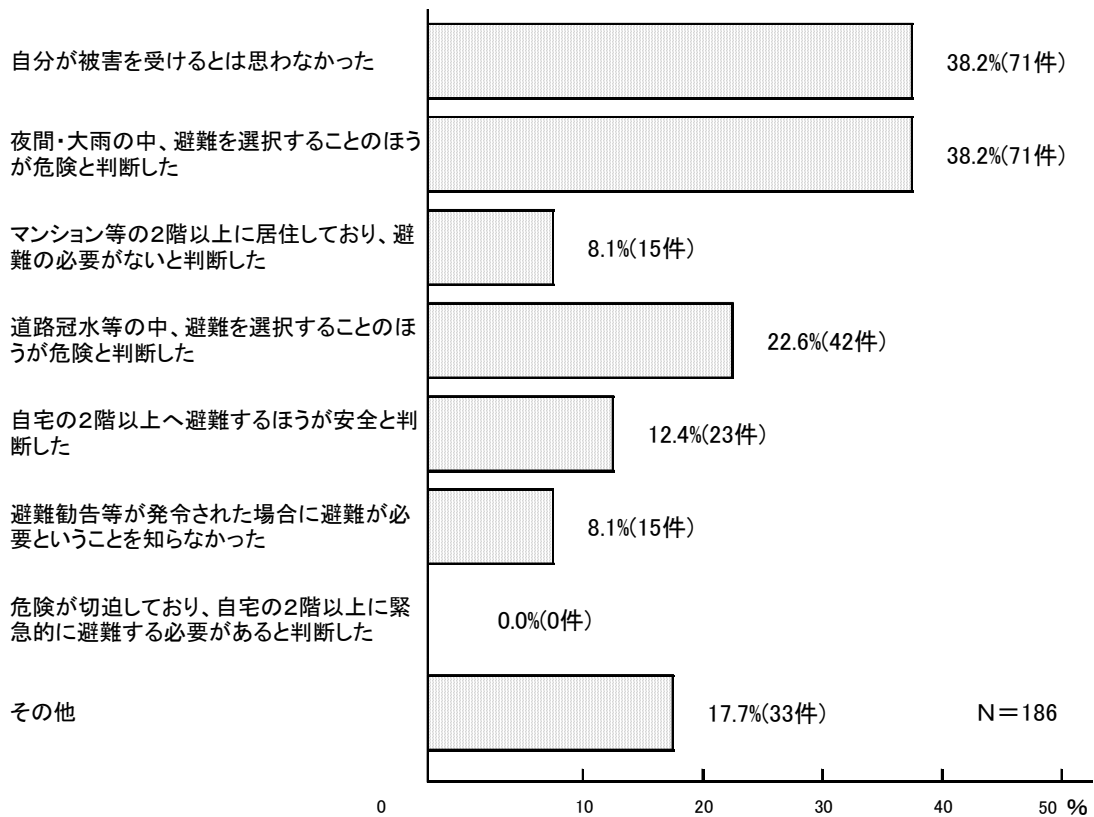


(可見市 [参考4] にて、自宅にとどまったと答えた 186 人の回答者)

[参考5：可見市 (N=186・複数回答)]

区分	回答数	%
自分が被害を受けるとは思わなかった	71	38.2
夜間・大雨の中、避難を選択することのほうが危険と判断した	71	38.2
マンション等の2階以上に居住しており、避難の必要がないと判断した	15	8.1
道路冠水等の中、避難を選択することのほうが危険と判断した	42	22.6
自宅の2階以上へ避難するほうが安全と判断した	23	12.4
避難勧告等が発令された場合に避難が必要ということを知らなかった	15	8.1
危険が切迫しており、自宅の2階以上に緊急的に避難する必要があると判断した	0	0.0
その他	33	17.7

(注) 可見市は、市域全域で避難勧告が発令されている。



【添付資料：(その他) の自由記入内容】

質問項目	記入内容
避難勧告・避難指示を見聞きした方法	<ul style="list-style-type: none"> ・放送（スピーカーを含む）[11件] ・公務員が一軒一軒訪問 ※防府市（山口県） ・市からのメール ・家族 ・警察官なので無線で ・水防本部で仕事 ・自治会 ・家族からの携帯電話連絡 ・公共施設への電話
避難勧告または避難指示を見聞きしてとった行動	<ul style="list-style-type: none"> ・職場で仕事をしていた [6件] ・自宅にいなかった [4件] ・すでに被災現場にいた ・職場(航空自衛隊の気象隊)で勤務していたので、大雨の情報を市役所に提供するように上司に進言した ・行政の防災業務に従事していた ・Webで被災状況を調べた ・パソコンで国土交通省の雨量・河川情報にアクセスして、豪雨と水位がピークを越えたことを確認した ・複数の非難場所の確保 ・家族に連絡を取り指示した ・高台に住んでいたため、避難する必要性がなかった ・外の様子を確認した ・班長さんから状況のメールの情報が来た ・早めに職場から帰宅した ・勧告地域に該当しないので自宅にとどまった ・特に何もしなかった
自宅にとどまった理由	<p>【被害が及ばないと思った】 [15件]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理的に被害がないと判断した ・氾濫する川も土砂崩れする山もないため ・比較的水害の発生しにくい丘に家がある ・避難場所より高い所に住んでいるから ・川より高い位置にあるため避難の必要がないと判断した ・高台に住んでいる ・自分の家庭には被害が来ない ・自分の家の周辺は大丈夫だと判断したため ・家が高台にあるので避難が不要と判断した ・自宅が高台にあるため大丈夫と判断した ・自分のところは避難しなくてよかったから ・高台に住んでいたため、避難する必要性がないと判断した ・地形上冠水しないところにあるので大丈夫だと思った ・私が住んでいる地域はそれほど危険ではなかったため ・高台のため、避難の必要がなかった

質問項目	記入内容
自宅にとどまった理由（続き）	<p>【行政の避難勧告を信用できなかった】 [4件]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何もおきない程度で市がオーバーな対応だった ・過去の状況と現状を分析した結果、避難の必要性が極めて低い状況に対して出された指示だったため、自己責任で従わなかった ・去年の経験をふまえて ・情報を見る限り自宅の方が安全だと判断した <p>【地域外であった】 [4件]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅の地域ではないから ・勧告が出た場所ではなかったから ・自分の住んでいる地域ではなかったから ・地域外 <p>【ペットを置いていけなかった】 [3件]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットがいるので置いていけない ・犬(室内犬がいたので)置いていけないと思いました ・犬猫を置いていけない <p>【まわりが避難していなかった】 [2件]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所は避難してなかったから ・まわりが誰も避難していなかった <p>【その他】 [9件]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そばに川があって状況がわかるのと、避難場所の方が以前に浸水したから ・同居する親が避難するのを拒んだため ・自宅から道路につながる道が土砂崩れのため通行不可だった ・放送の内容が分からなかったので、待機していました ・雨がおさまっていたので大丈夫だと思った ・仕事から自宅に帰ったとき、自宅辺りは雨も少なく冠水もまったくしてなかったから ・班長からの連絡で避難している人の数が少ないと知り必要性を感じなかった ・自宅が避難所の隣なので ・様子を見た